奈良・曲川（まがりかわ）遺跡

1 所在地　奈良県橿原市新堂町字フケ

2 調査期間　一九八六年（昭61）七月～一九八七年一月

3 発掘機関　橿原市教育委員会

4 調査担当者　阪口俊幸

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　縄文時代晩期、古墳時代前・中期、平安時代後半～鎌倉時代初頭

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

曲川遺跡は、奈良盆地の南端、ガラス器など西方の遺物が出土したことで知られる新沢千塚古墳群の北北東約三kmにある遺跡で、西約八〇〇mの葛城川、東約九〇〇mの曽我川（ともに北流する河川）に挟まれた位置に立地する。従来は古墳時代前期の集落跡として知られていたが、今回の調査により、縄文時代晩期のカメ棺墓群、古墳時代中期の方墳、平安時代後半～鎌倉時代初頭の掘立柱建物群が新たに発見された。

（吉野山）

掘立柱建物群は全体を大溝で囲まれたひとつの集落と考えられ、敷地内はさらに小規模の溝で区画分けが行われている。木簡の出土した井戸は、集落内のほぼ西端にある建物群の北西部に接した位置で検出された。この井戸は本来的には枠をもつものであるが、掘形内には曲物等を固定するための柱が四隅にみられるのみで、実際には完成されずに放棄され、埋め戻されている。出土遺物には木簡三点のほか、柱や竹材（製品かどうかは不明）がある。埋め戻された後、大量の土器類が廃棄された。

付近からは寛平大宝が、また調査地全体では、石硯・墨・石帯・延喜通宝などが出土している。遺物から見て、集落は一二世紀代を中心としている。

8 木簡の釈文・内容

(1)　□急々如律令　　(61)×(20)×1.5　081

他の二点の木簡は解読不能であった。

（阪口俊幸）